反貧困 国と自治体、大企業は責任を果たせ！

各地で「労働・生活相談会」

大阪自治労連の仲間も ボランティアで支援

相談に応じる大阪自治労連の仲間

テント会場には相談に訪れた人たちの行列が

学校給食部会が温い豚汁を配食
「おいしい」と、おかわりをする人もたくさんいました

派遣切りで職を失った人や、ホームレスの人たちを対象に大阪の各地で労働・生活相談が行われています。3月21日、22日と大阪市役所前で行われた「春の大相談会」には212件の相談が持ち込まれました。働き盛りの人からの相談が多く、85件が生活保護を申請しました。「大相談会」を支えたボランティアはのべ330人。大阪自治労連からも、福祉部会、公衆衛生部会、学校給食部会の役員をはじめ50人を超えるボランティアが参加して、生活相談、設営、案内、配食サービスなどに奮闘しました。

炊き出し、生活物資で被災労働者を支援

松原市職労

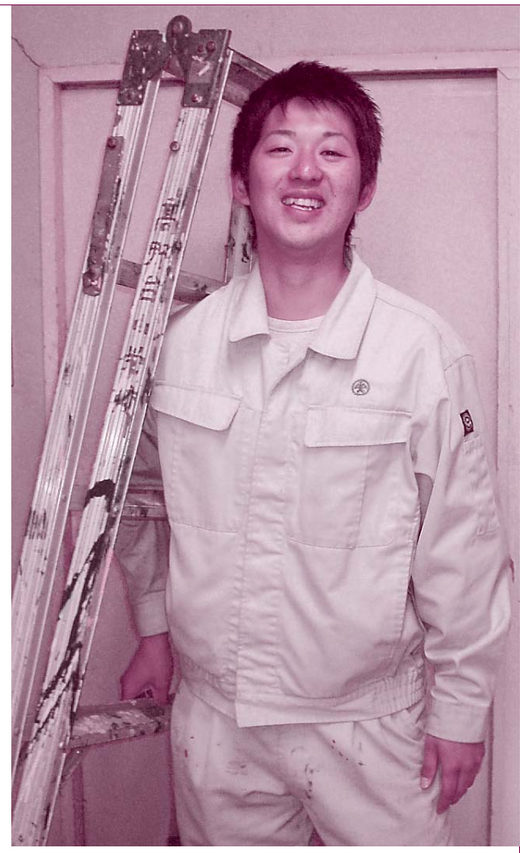
松原市職労は、市内の雇用促進住宅に入居したものの、生活物資がなく食事もできない「派遣切り」の被災労働者を、地域の住民団体や青年とともに支援。市民や組合員から寄せられた中古のコタツや冷蔵庫、テレビ、テレホンカードを送り、生活相談、カレーライスの炊き出しをして喜ばれています。

入居者の相談に応じる支援者（3月27日）▶

おおさか自治体の仲間
発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2009年4月15日　No.243
〒530－0041　大阪市北区天神橋1－13－15大阪グリーン会館4F　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp
発行人／谷　真琴　編集人／久保　貴裕
平成2年9月12日第3種郵便物認可
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

子どもたちの生活を見守り、学校の安全を支えていきたい。

吹田市職労現業合同支部
富永　健一さん（学校校務員）



子どもたちから「ありがとう」の手紙

ベテランの先輩に教えられて

「子どもと自然、釣りが大好き」という23歳。校務員の仕事は6年目になります。「最初は、覚える仕事の種類が多くて、びっくりしました」

校務員は学校に1人だけの配置ですが、新入職員は先輩から仕事を教えてもらえるように、最初のうちは、例外的に2人配置される大規模な学校に配属されます。富永さんも配属された中学校で3年間、父親ほど年の離れたベテランの先輩について仕事を覚えました。登下校の見守り、校舎や器具の点検と修繕、植木の剪定（せんてい）、行事の看板作成、教員との連絡など、仕事は多種多様です。雨で校門に水が溜まれば、すぐに駆けつけて掃きます。穴を掘り、コンクリートを敷いて池を造ったこともありました。池には古くなった平均台で造った橋を架けるなど、先輩のテキパキとした仕事ぶりに「ここまでやるのか…」と驚くことはかり。「技術は持っていて損はないぞ」とアドバイスも受けました。

校務員室が子どもの居場所に

授業中に校務員室にやって来る子もいました。様子を見て、「どうしてもここに居たかったらええよ。でも次はちゃんと授業に出ろよ」と部屋に入れてあげると、先生や家族に話せない悩みをうちあけてくることも。「校務員室がその子の居場所になっていたんです」

4年目から現在勤めている小学校に異動。校務員は自分一人だけになりました。「覚悟しておけよ」。先輩の言葉どおり、仕事を一人でこなす厳しさを実感しています。最近、特に気にかかるのが老朽化する校舎の安全。階段にひびが入ったり、手すりが錆びてグラついたりと、危険箇所を見つけるとすぐに応急措置をとります。

校務員の仕事 市民にも知らせたい

子どもたちへの気配りも忘れません。雨が降って渡り廊下に水が溜まれば、子どもたちが滑って転ばないように、休み時間、給食時間、下校時間、それぞれの時間が来る少し前に水を掃いておきます。春が過ぎると校庭に草が生え、いろんな虫がやって来ます。草刈りは校務員の仕事ですが、虫を見つけては喜んで遊んでいる子どもたちのために、夏が来るまで刈らずに残しておくこともあります。夏になれば、校内の竹藪から七夕の飾りに使える笹を切りとり、子どもたちに喜ばれています。

「毎日見ているから、気持ちがわかるんです。やりきれていないこともありますけどね。僕たちのやっていることを市民にもどんどん知らせて、この仕事を守っていきたいです」